

地域と学校が連携して取り組む事例をご紹介します

国見地区 登下校時の見守り活動

防犯ボランティアの方が、「おはよう」「おかえりなさい」と声をかけてくれます。



岩切地区 地域の防災活動

地域の方と学区内の危険箇所を確認しながら、防災マップを作っています。



生出地区 干し柿作り

まちづくり委員会をはじめ地域の色々な団体が干し柿作り等の体験活動を通して、子どもたちを育んでいます。



高森地区 花植えネットワーク

地域の方や保護者の方と一緒に花壇の植栽を行っています。



いじめ等に関する相談窓口

お子さんに変わった様子が見られたり、いじめかな?と思ったら、遠慮なく学校に相談してください。地域でいじめを見たり聞いたりした際も、学校にお知らせください。

学校以外にも、いじめ等に関する相談窓口があります。

下記以外の相談窓口については、仙台市ホームページをご覧ください。

教育委員会 の窓口

仙台市教育相談室 ☎ 022-214-0002 平日 9時～17時

24時間いじめ相談専用電話 ☎ 0120-81-2455 24時間 365日

いじめ相談受付メール ✉ soudan@city.sendai.jp

子供未来局 の窓口

仙台市いじめ等相談支援室 ☎ 0120-303-836 月・水・木・土 10時～17時

火・金 12時～19時

※日曜祝日、年末年始を除く

✉ s-ket@city.sendai.jp

保護者のみなさん

地域のみなさん

へ

社会全体で子どもたちを いじめから守りましょう



- いじめは、子どもの権利を侵害し、心身に重大な危険を生じさせるおそ
れがある決して許されない行為です。
- 子どもたちがいじめに悩み、苦しむことなく、健やかに成長するこ
ができるよう、市や学校、保護者、地域が連携して、いじめの防止等に
取り組みましょう。

ご存知ですか? いじめの定義

「いやだ」「苦痛だ」と 感じるものはいじめです



からかいやいじり、遊びのつもりなど、
行った側に悪気がなくても、受けた側が心
身の苦痛を感じているものはいじめです。
これには、インターネットを経
由する行為（ネット掲示板や
SNSでの誹謗中傷など）も
含みます。

いじめの
捉え方が昔とは
違うんだなぁ…



子どもたちをいじめから守るために 取り組みはたくさんあります。 みなさんもできることから行動してみてください!

保護者のみなさんへ

お子さんの教育 学校任せでいいの?



うちの子が友達とトラブルなんて…学校の指導はどうなってるんだか。



1 ちょっと待って!
保護者としてそれでいいんですか?

2 仙台市いじめの防止等に関する条例第8条に、「保護者は、子の教育について第一義的責任を有する」と定められています。

3 どうか、学校任せじゃダメなんだね。じゃあ保護者としてどうしたらいいのかな?

4 もしも、お子さんことで困ったことや悩みがあれば、一人で抱え込まずに、学校の先生やスクールカウンセラー、その他専門の相談窓口に遠慮なく相談してください。

お子さんが思いやりの気持ちを持ち、健やかに成長できるよう、次のことを心がけてください。

- 集団生活におけるルールやマナーなどが身につくよう、保護者が姿勢を示しましょう。
- どんな理由があっても暴力や暴言、無視、ネグレクトなどの虐待をしてはいけません。
- 偏見や差別など、あなた自身の言動がお子さんの成長に悪影響を与えていないか、考えてみましょう。
- 地域行事に積極的に協力し、お子さんと一緒に参加してみましょう。

資源回収
手伝って



いじめに関する主な相談窓口は④ページをご覧ください。

地域のみなさんへ

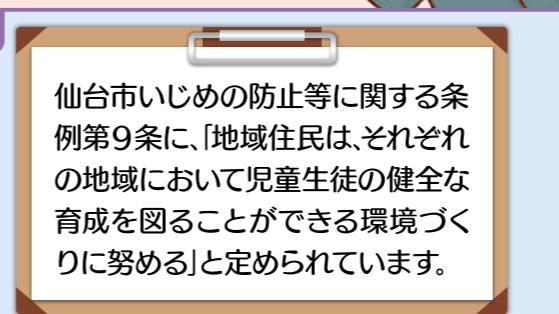
子どもたちとの交流 どうしたらいいの?



来週の資源回収、子どもたちにも手伝ってほしいけど、どうしたらいいかな…



※コラム参照



2 地域における世代間交流は、子どもたちの自己有用感*を高める絶好の機会ですよ!

3 仙台市いじめの防止等に関する条例第9条に、「地域住民は、それぞれの地域において児童生徒の健全な育成を図ることができる環境づくりに努める」と定められています。



それって具体的にどうしたらいいの?
何か新しいことしないといけない?

地域行事などの交流を通じて、子どもたち一人ひとりが自分に自信を持ち、他者を思いやれるよう、健やかな成長を支えてください。

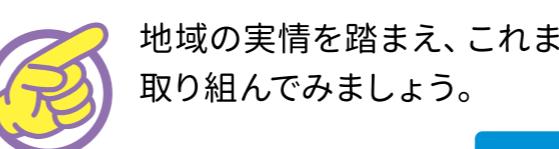
- 清掃やお祭りなどの行事で、子どもたちに役割を与え、その活動を褒めてあげましょう。ちょっとした一言が、子どもたちにとっては大人に認めてもらえたという気持ちになります。



- 登下校時に、近所の子どもたちに「いってらっしゃい」「おかえりなさい」などの声掛けをしましょう。そのことで子どもたちが自分の居場所を感じることができます。

コラム 自己有用感とは

人の役に立ち、人から感謝されたり認められたりすることを通して、自分の存在を肯定的に受け止める感情とされています。
(参考: 国立教育政策研究所)



地域の実情を踏まえ、これまで行ってきた活動や行事の中で、無理なく可能な範囲で取り組んでみましょう。

地域と学校が連携した取組事例は④ページをご覧ください。